



# 大淀中だより

学校教育目標「自主・自律の態度と共生の心を育成する」

京都市立大淀中学校

学校だより

令和7年(2025)8月27日

校長 塩見 登

## ドリームゼミ 始動(総合的な学習)

1 学期末の学校だよりでもお伝えしたように、2 学期からドリームゼミがスタートします。このゼミがスタートするまでに昨年度から様々な学校を視察に訪れ会議を重ねました。そして出来上がった大淀バージョン“ドリームゼミ”が始動します。取り組み内容をこの学校だよりで簡単にご説明いたします。

■自分の興味・関心・やりたいことなどを調べ、新しい世界を広げて深めていく学習。

■3 年生が中心です。1・2 年生は 3 年生が開講したゼミのゼミ生になります。(ゼミで探究していきます)

■興味・関心 → 疑問 → 仮説をたてる → 検証 → 深める・広げる → くりかえし

■教員は、ファシリテーター(伴走者)となり、一緒に探究するイメージです。

■基本的に金曜日5・6時間目。8 月 29 日(金)スタート。9 月 12 日(金)外部講師来校

■11 月 7 日(金)中間発表。12 月 23 日(金)発表。(保護者の皆さまの参観の予定はございません)

■申請書類①(探究特別物品使用申請書)ゼミに必要な物品がある場合 ※保護者のサインが必要

■申請書類②(探究校外活動申請書)

※基本的に、校区内で活動。※必要な場合:京都市内もしくは4時までに学校に帰ってこられる範囲 ※要教職員引率

※3 週間前までにゼミ担当の先生に申請書提出 ※交通費自費 ※保護者のサインが必要 ※1 年生は校区内のみ

■材料費が必要なゼミが出てくる可能性があります。※自費 ※ドリゼミ期間内で¥1,000 程度(必要な場合のみ)

## 感動をありがとう (夏季大会・コンクール)

夏休み期間中に夏季大会と吹奏楽部のコンクールが開催されました。女子バスケットボール部の快進撃を始め、水泳部団体が京都府 6 位入賞と個人では昨年に続いて近畿大会出場という素晴らしい結果を残してくれました。

【近畿大会出場】

(水泳部)

●H.H さん(3-2) 女子 平泳ぎ 100M 8 位 200M 7 位

●N.C さん(3-2) 女子 50M・100M 自由形 出場

【市・府大会の主な結果】

(水泳部 京都府大会)

●H.H さん(3-2) 女子 平泳ぎ 100M 3 位 200M 1 位

●N.C さん(3-2) 女子 50M 自由形 3 位

(男子テニス部)

●M.R さん(3-4) T.S さん(3-4) ●H.R さん(3-3) T.H さん(2-3) ●N.S さん(2-4) M.T さん(2-4) 1 回戦敗退

(女子バドミントン部) ●団体 全市大会出場 1 回戦敗退

●M.Y さん(2-2) O.R さん(2-4) ●O.M さん(2-3) K.S さん(2-3) 2 回戦敗退

●H.M さん(3-5) ●M.S さん(2-2) K.M さん(2-3) 1 回戦敗退

(女子バレーボール部) 1 回戦敗退 (男子バスケットボール部) 1 回戦敗退

(女子バスケットボール部) 京都市 3 位(京都府大会出場 1 回戦敗退)

(柔道) T.K さん(3-3) 京都市準優勝(京都府大会出場 2 回戦敗退)

Y.Y さん(1-2) 京都府大会出場 1 回戦敗退

(吹奏楽部) 京都府吹奏楽コンクール中学生の部 B 銀賞



## チーム担任制(1 学期末アンケート報告)

7 月に行われた三者懇談の時期に学校評価アンケートをすぐーるにて配信させていただきました。前年度の書面での回答に比べても多数の方々が回答していただき大変ありがたく思っております。ご協力いただき誠にありがとうございます

た。学校評価に関する結果に関しては次号以降でお伝えします。今回は、コメント付きでご回答いただきましたチーム担任制に関してご報告させていただきます。新しい取り組みのため保護者の皆様方にとっても生徒のみなさんにとっても不安な点もあったかと思います。1学期のみということで評価をすることが難しいというご意見等も多数いただいております。保護者の方々からのアンケートでは、子どもが関わる先生がたくさんいて喜んでいる・それぞれが熱心に関わってくれているなどのご意見がある一方で、どの先生に頼っていいかわからない・週1は早すぎるのでは・教職員の連携は大丈夫かといったご意見もいただいております。

また、生徒に行ったアンケートでは、

チーム担任に賛成74票。反対48票。どちらともいえない60票。無回答6票でした。保護者の皆さまや生徒のみなさんのアンケートと同時に教職員が感じた良い点・悪い点も夏休みに全体で検証いたしました。学年の先生方全体で学年を見ていく。一人の生徒も取り残さない。そして子どもたちの自主・自律・共生の心を育成する取り組みを学校全体で引き続き行ってまいります。2学期も保護者の皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。

## ～淀から世界へ(校長の独り言)～

北海道一周単独自転車旅、南の苫小牧から札幌～旭川。“北の国から”の聖地富良野・美しい景色の美瑛～最北の地、夏でも夜はストーブの稚内。刑務所で有名な網走から根室・帯広。競走馬がいっぱいの静内・えりも岬。スタート地点苫小牧を通過して、函館で単身赴任している父を訪ねてひたすらペダルをこぎ続けた1ヶ月。今思えばなんて贅沢な時間なんでしょう。手持ちは数万円、自転車に2～3日分の着替えに寝袋で旅はスタート。多くのライダー・チャリダーそして温かい道民との出会いがありました。もちろんホテルなどに泊まることはなく、安全そうな場所を見つけて寝袋に包まって疲れをとる毎日でした。雪国のためバス停が非常に立派でよく利用させてもらいました。ある朝、目が覚めると“事故に気をつけて、北海道を楽しんでください”とメモ書きと一緒に手作りのおにぎりが頭の近くに置いてあることもありました。また、人が誰もいない静内駅の待合室で休んでいると、怪しげなおじさんが声をかけてきました。“家にこい！”良い子は、絶対ついて行ってはいけないところですが、ついて行ってしまいました。すると、“風呂は入っているのか？”“ちゃんと、ご飯は食べているのか？”素直にこう応えました。“お風呂は、入っていません。”“ご飯は、あまり大して食べていません。”かすかな期待をしている自分がいたのは想像できると思います。そうです。お風呂に入ってもらい、ジンギスカンが用意され、1泊までさせてくれたのです。翌日は、競争馬で淀競馬場にも出走したことがあるような有名な馬がいる場所にまで連れて行ってくれました。また、別の日には、大自然の中で気持ちよく走っていると急に後ろタイヤの元気がなくなってきました。一番恐れていた“パンク”です。次の町までは何キロあるのだろう？北海道の大自然の中でポツンと一人。自転車を押し始めました。何キロ押したかわからないところで、後ろから軽トラがゆっくり近づいてきます。

“パンクか？自転車屋までつれてってやるよ！”軽トラックの後ろで自転車とともにゴトゴト揺られたこともいい思い出です。都会でも、人の温かさに触れることはあります。しかし、またそれとは違った道民の温かさを何度となく感じ心が温くなりました。北海道は、きれいな大きな一本道がたくさんあります。しかし、車やバイクでは大変さをあまり感じないちょっとした登坂や峠がたくさんあります。登り切ったときの達成感、そして風を切って下る爽快感、思わず“ウォー”と幾度となく叫びました。下りながら考えることは、これを下ったら必ずまた登りがやってくる。大変なことをしたときの達成感。そしてそのあとの幸せなひととき。けど、またやってくる試練。自転車を毎日乗りながら、“これって、これからの人生と同じかも”と登りながらよく考えました。自分では、大学生でなかなかの挑戦をしていると思っていました。しかし、そこで出会った少年に度肝を抜かれました。どこからどう見ても中学生。地元の中生かと思いきや秋田県からやってきた中学2年生。同じく、単独で北海道を自転車で・・・“すごい！すごすぎる！”横浜で偶然出会った高校時代の先輩が私を北海道へ。そして、北海道で出会った秋田の中学2年生が、次のチャレンジの舞台、国外へと導いてくれた気がします。人との出会い。思いがけない出会い。人生どんな出会いが待っているかわからない。私と出会って海外に飛び出した生徒もたくさんいます。もちろん海外だけがすべてではありません。出会って良かったと思える大人であり続けたい。いよいよ、国外に出て行きます。まだまだジンバブエにはたどり着きません。最後までたどり着かないかも知れません。今回は、リュック一つでバックパッカーへの道に続きます。